

「経営者の事業方針に関するアンケート」調査結果の概要

- I 調査目的と実施要領
- II 調査結果
 - 1 経営者の年代別にみた中小企業の業績
 - 2 中小企業経営者の年代別特徴
 - 3 経営課題と今後の見通し
- III まとめ

※ 本概要では44歳以下の経営者を「若手経営者」、45歳以上の経営者を「中高年経営者」と定義している。

<問い合わせ先>
日本政策金融公庫総合研究所
小企業研究第一グループ
TEL 03-3270-1687
担当 藤田、^{わけす}分須、深沼

I 調査目的と実施要領

1 調査目的

中小企業の経営状況や経営課題、経営者の事業に対する考え方等を探るため、「経営者の事業方針に関するアンケート」を実施した。

2 実施要領

- (1) 調査時点 2014年7月
- (2) 調査対象 日本政策金融公庫国民生活事業および中小企業事業の取引先のうち、創業後5年以上の企業 12,000社
- (3) 調査方法 調査票の送付・回収ともに郵送、アンケートは無記名
- (4) 有効回答数 3,990社 (回収率33.3%)
 - 内 訳 個人経営 782社(19.6%)
 - 法人 3,208社(80.4%)

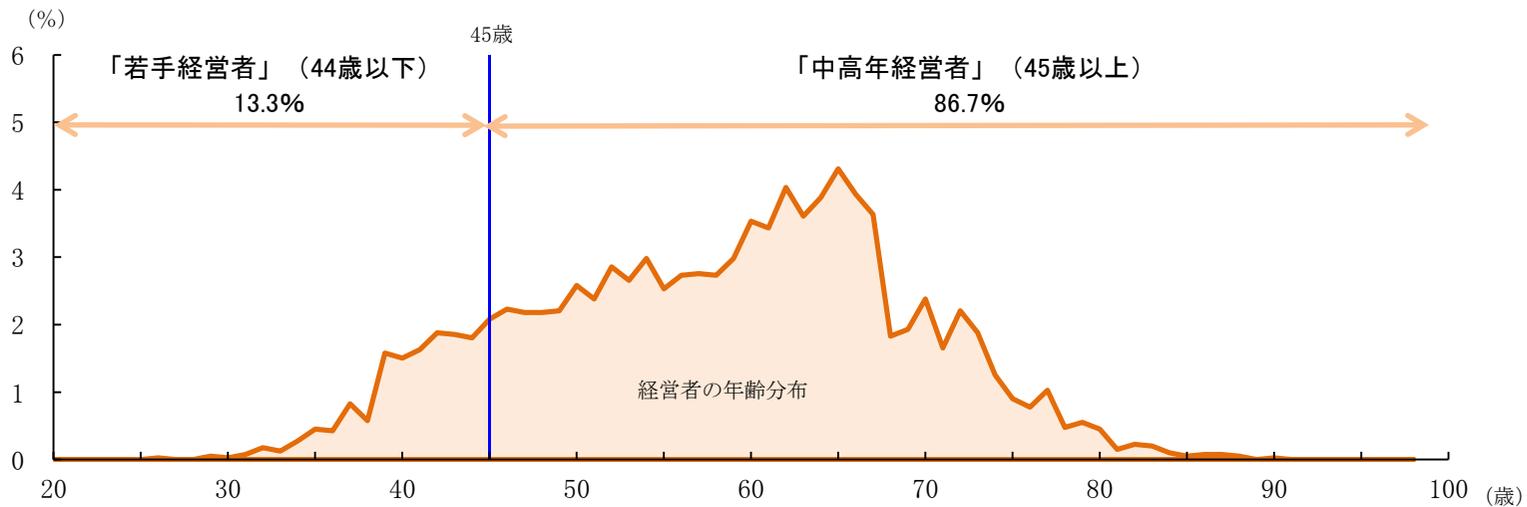
3 経営者の年齢と分析の切り口

アンケート回答企業の経営者の平均年齢は57.9歳であった(図)。他方、「経営者として最も能力を発揮できる年齢」をたずねたところ、平均は44.4歳であった。そこで、本概要ではその年齢に至るまでの44歳以下を「若手経営者」、45歳以上を「中高年経営者」と定義し、両者の比較から「若手経営者」の特徴を紹介する。

図 経営者の年齢分布



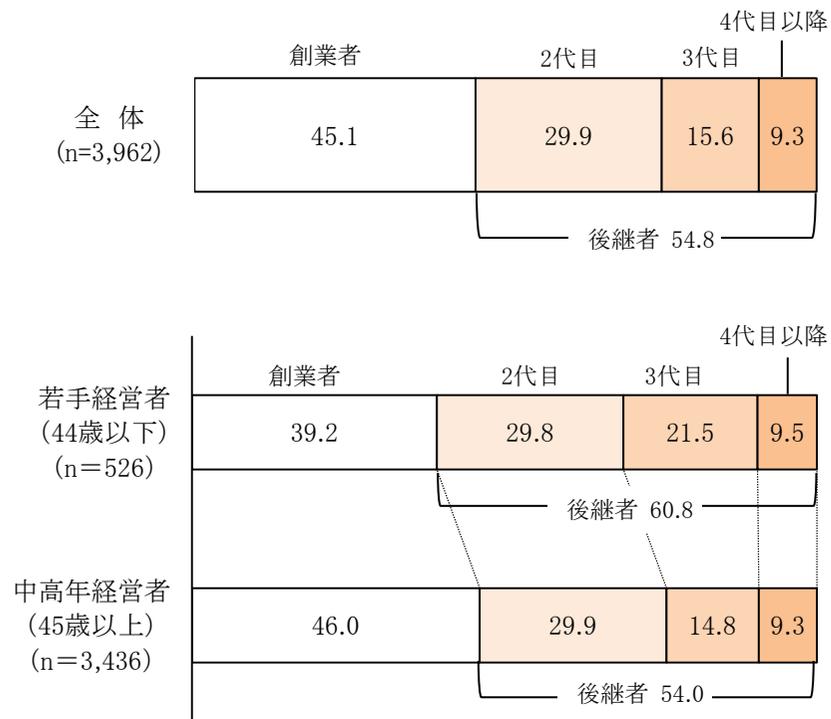
【経営者の年齢分布と次ページ以降の分析の切り口】



4 経営者の代と性別

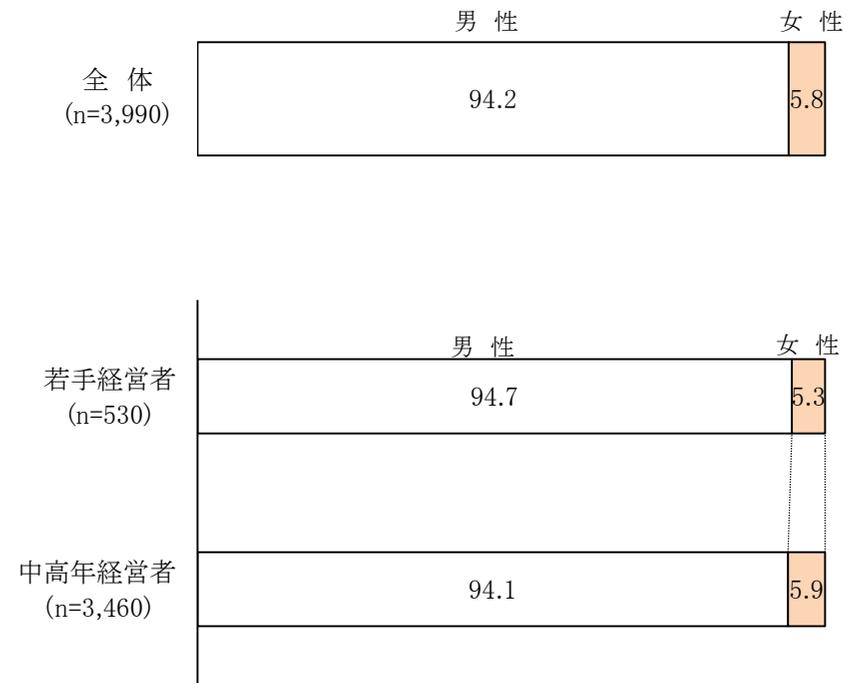
(1) 経営者の代

(単位：%)



(2) 経営者の性別

(単位：%)



- (注) 1 四捨五入のため、合計は100にならないことがある(以下同じ)。
 2 以下では44歳以下を「若手経営者」、45歳以上を「中高年経営者」と表記する。

5 企業の概要

(1) 業種

(単位：%)

	製造業	非製造業	サービス業	建設業	小売業	卸売業	運輸業・倉庫業	飲食店・宿泊業	情報通信業	その他
全体 (n=3,990)	27.9	72.0	18.2	15.3	12.5	11.5	4.9	4.9	1.6	3.1
若手経営者 (n=530)	24.9	75.0	22.1	18.9	9.4	8.7	4.3	5.4	2.1	4.1
中高年経営者 (n=3,460)	28.4	71.6	17.7	14.8	13.0	11.9	4.9	4.9	1.6	2.8

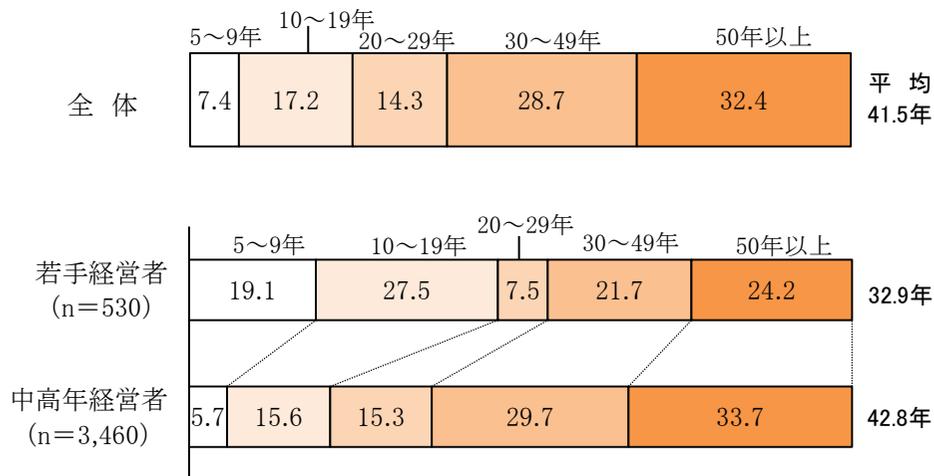
(注) 1 複数の事業を営んでいる場合は、最も売上げの多い業種について回答してもらった。

2 「サービス業」には「医療、福祉」「教育、学習支援業」「物品賃貸業」「その他サービス業」を含む。

3 「その他」には「不動産業」を含む。

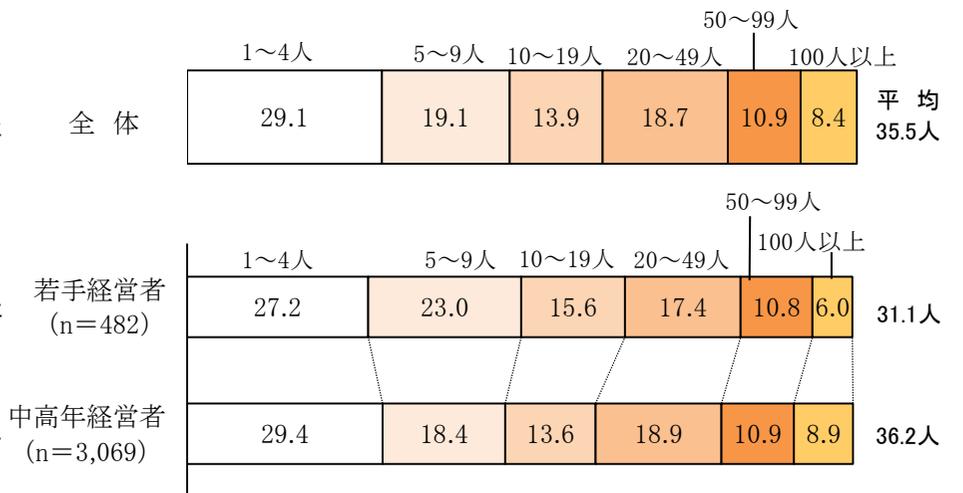
(2) 業歴

(単位：%)



(3) 従業員数

(単位：%)



Ⅱ 調査結果

1 経営者の年代別にみた中小企業の業績

～「若手経営者」（44歳以下）の企業では「中高年経営者」（45歳以上）の企業よりも「売り上げ」「利益額」が増加傾向の割合が高い～

- 現在の売り上げの状況をみると、「増加傾向」と回答した企業の割合は全体の32.6%であった(図-1)。年代別にみると、44歳以下の「若手経営者」の企業では、「増加傾向」と回答した割合が46.4%と、「中高年経営者」の30.5%を上回っている。
- 現在の利益額の状況をみると、「増加傾向」と回答した企業の割合は全体の26.1%であった(図-2)。年代別にみると、「若手経営者」の企業では、「増加傾向」と回答した割合が36.0%と、「中高年経営者」の24.6%を上回っている。

図-1 現在の売り上げの状況

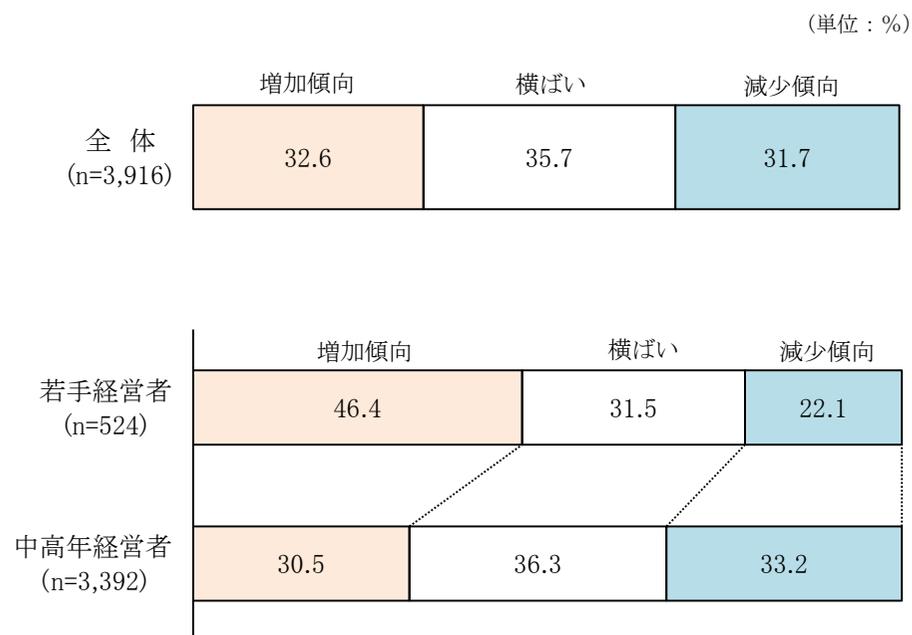
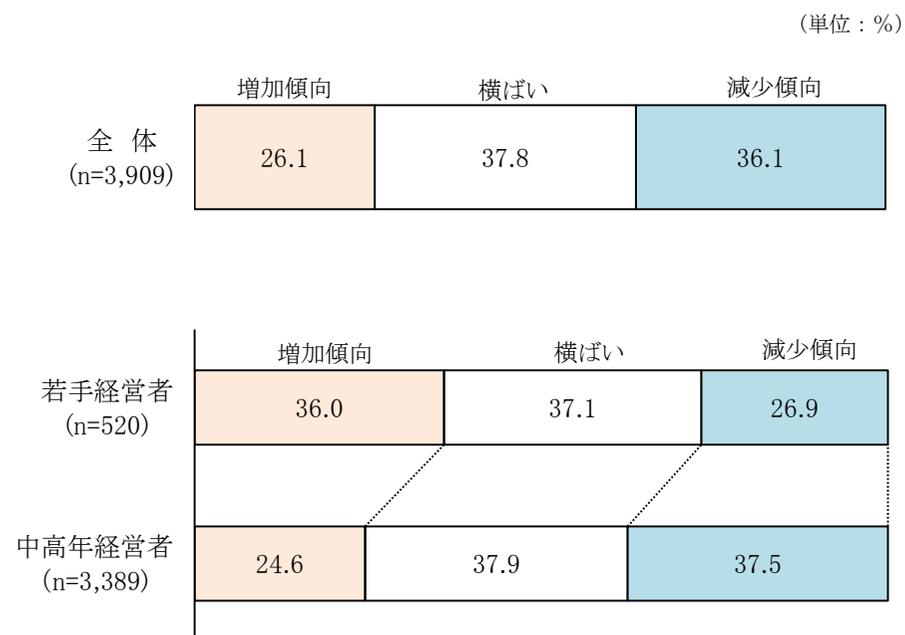


図-2 現在の利益額の状況



Ⅱ 調査結果

1 経営者の年代別にみた中小企業の業績

～「若手経営者」の企業では「中高年経営者」の企業よりも業況が「良い」企業が多く、「従業員数」が増加傾向の割合も高い～

- 現在の業況をみると、「良い」と回答した企業の割合は全体の20.0%であった(図-3)。年代別にみると、「若手経営者」の企業では、「良い」と回答した割合が26.5%と、「中高年経営者」の19.0%を上回っている。
- 現在の従業員数の状況をみると、「増加傾向」と回答した企業の割合は全体の26.6%であった(図-4)。年代別にみると、「若手経営者」の企業では、「増加傾向」と回答した割合が35.3%と、「中高年経営者」の25.2%を上回っている。

図-3 現在の業況

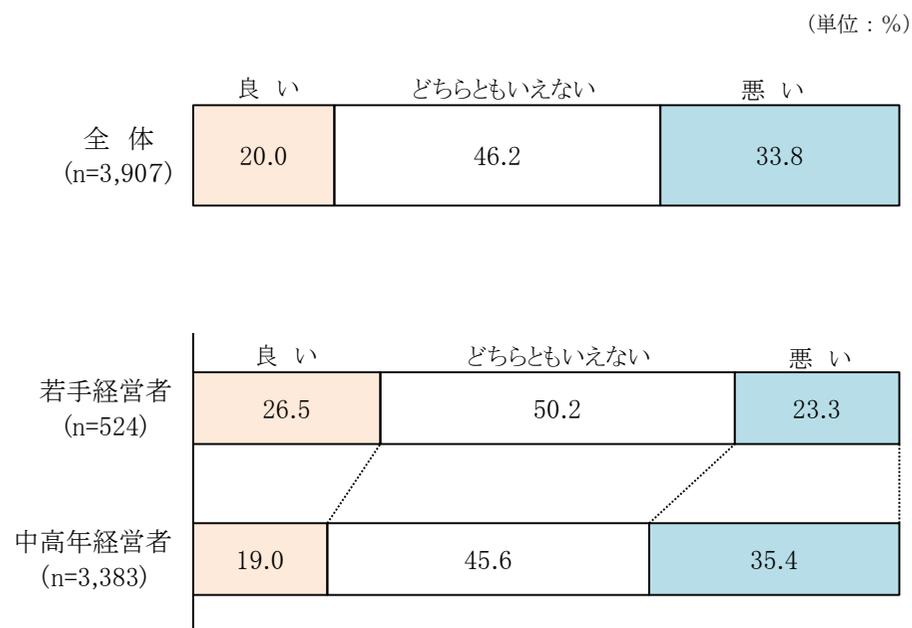
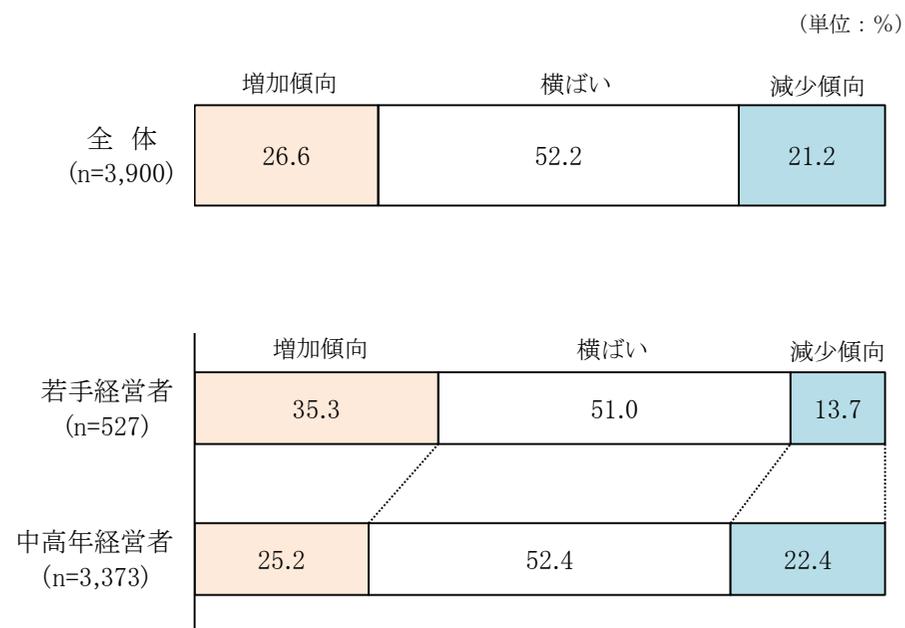


図-4 現在の従業員数の状況



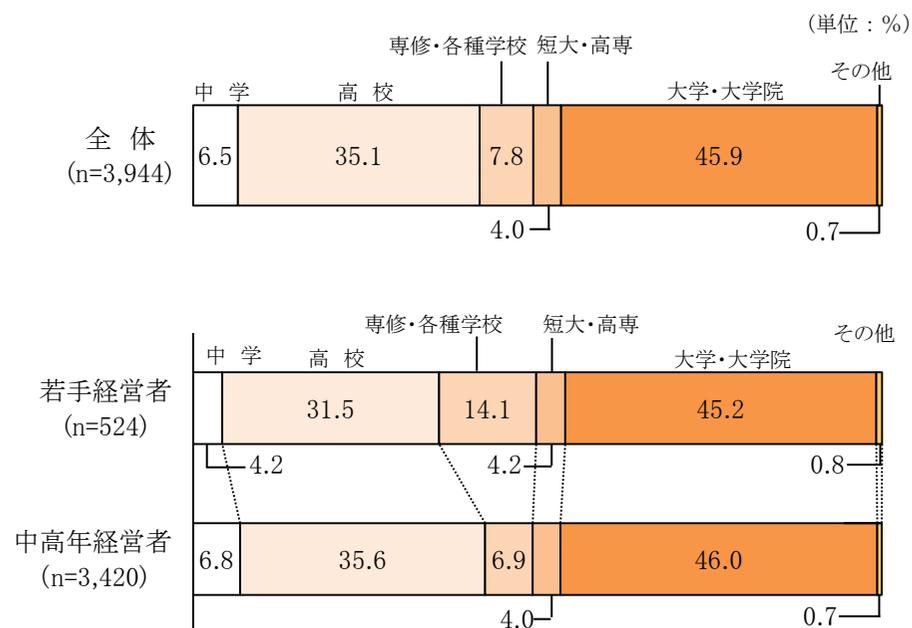
II 調査結果

2 中小企業経営者の年代別特徴

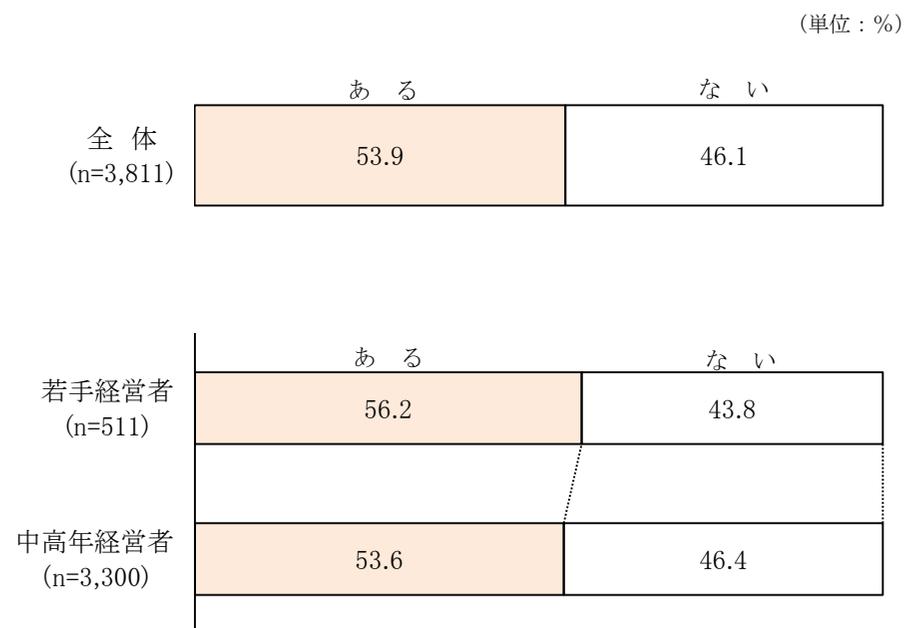
～「最終学歴」は経営者の年代を問わず「大学・大学院」が多い～

- 経営者の最終学歴をみると、全体では「大学・大学院」と回答した割合が45.9%と最も高い（図－5）。年代別にみても、傾向は同じである。なお、「若手経営者」では「専修・各種学校」が14.1%と、「中高年経営者」の6.9%よりも多くなっている。
- 斯業経験（自社を除いた、現在の事業に関連する仕事の経験）の有無をみると、「ある」と回答した割合は全体の53.9%であった（図－6）。年代別にみると、「若手経営者」が56.2%、「中高年経営者」が53.6%と、両者の間に差はみられない。

図－5 最終学歴



図－6 斯業経験の有無



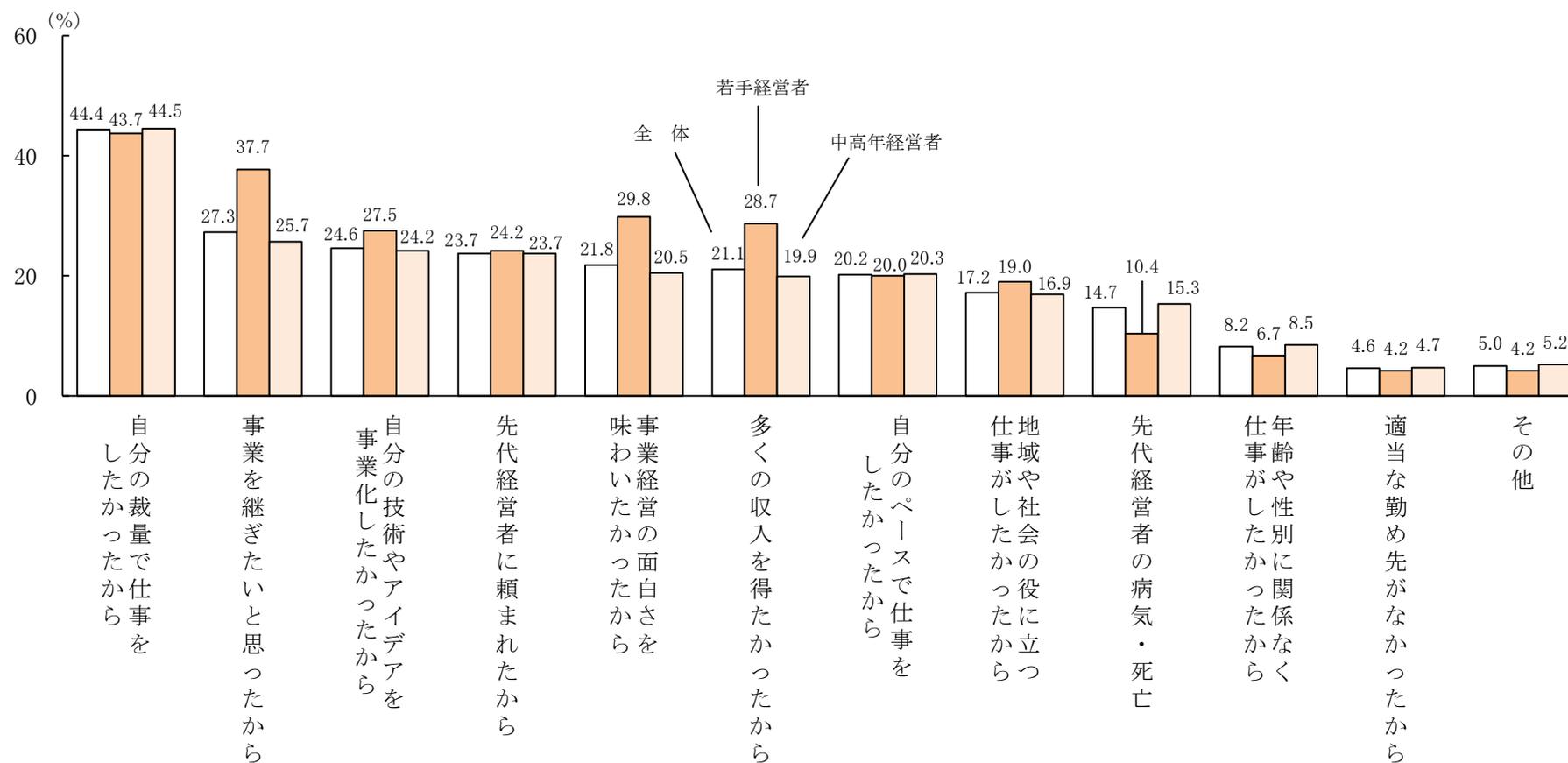
II 調査結果

2 中小企業経営者の年代別特徴

～「若手経営者」の4人に1人が「事業経営の面白さを味わいたかったから」「多くの収入を得たかったから」～

- 経営者になった理由をみると、全体では「自分の裁量で仕事をしたかったから」の割合が44.4%と最も高く、次いで「事業を継ぎたいと思ったから」が27.3%、「自分の技術やアイデアを事業化したかったから」が24.6%の順となっている（図－7）。
- 年代別にみると、「若手経営者」は「事業を継ぎたいと思ったから」「事業経営の面白さを味わいたかったから」「多くの収入を得たかったから」などの回答割合が「中高年経営者」よりも高くなっている。

図－7 経営者になった理由（複数回答）



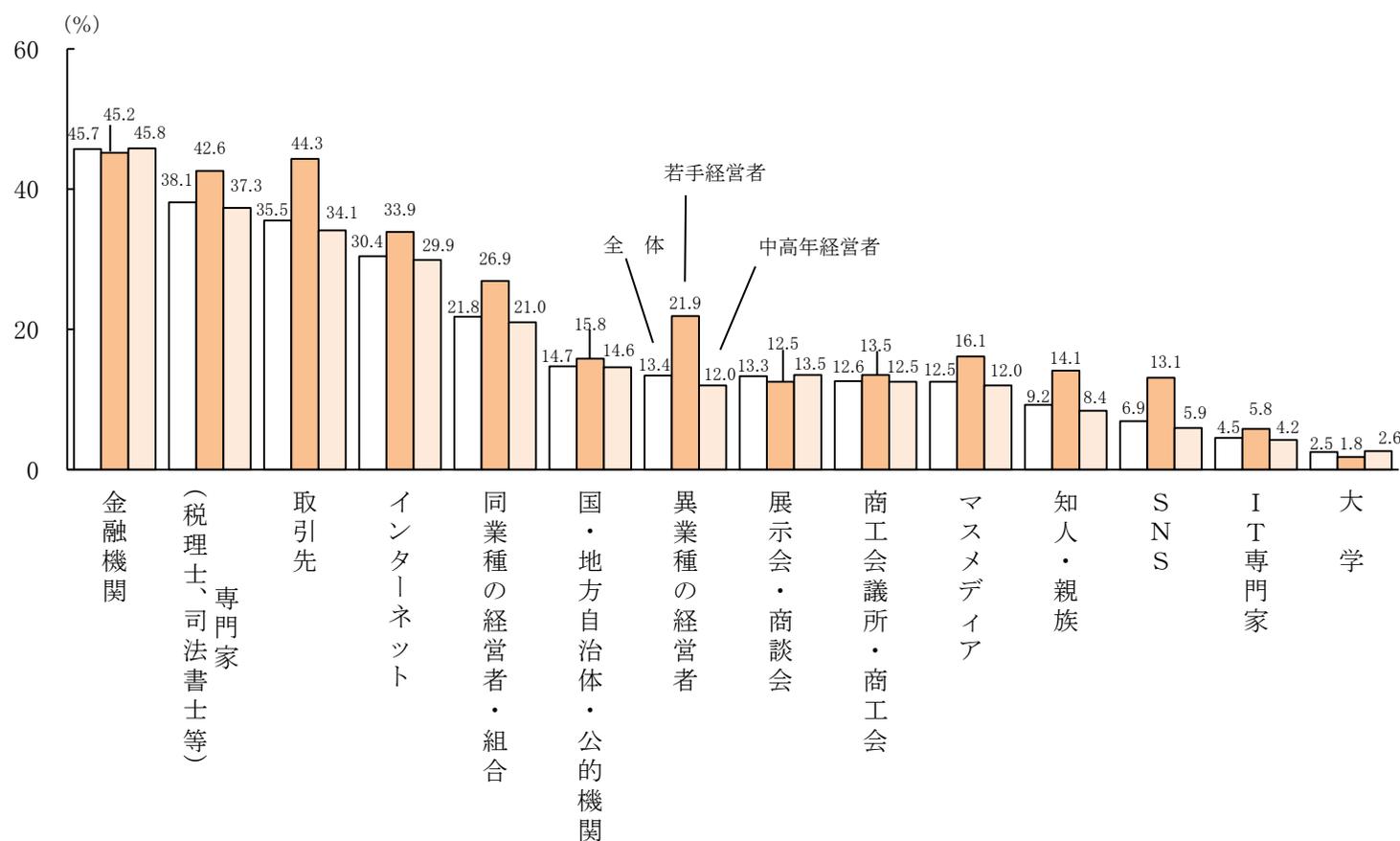
Ⅱ 調査結果

2 中小企業経営者の年代別特徴

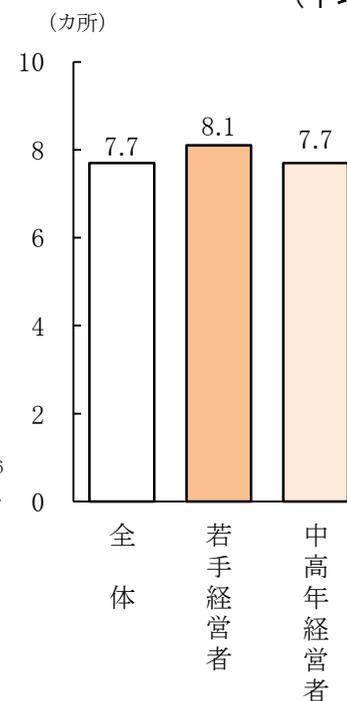
～「若手経営者」は「取引先」「同業種の経営者・組合」などから情報を収集している割合が高い～

- 経営に必要な情報の収集先として「大いに活用している」ところをみると、全体では「金融機関」の割合が45.7%と最も高く、次いで「専門家（税理士、司法書士等）」が38.1%、「取引先」が35.5%の順となっている（図－8－1）。
- 年代別にみると、「若手経営者」は「取引先」「同業種の経営者・組合」「異業種の経営者」「知人・親族」などの割合が「中高年経営者」よりも高くなっている。情報収集先の数（平均）も「若手経営者」は8.1カ所と、「中高年経営者」より多い（図－8－2）。

図－8－1 経営に必要な情報の収集先



図－8－2 情報収集先の数
(平均)



(注) 各項目について「大いに活用している」と回答した企業の割合。

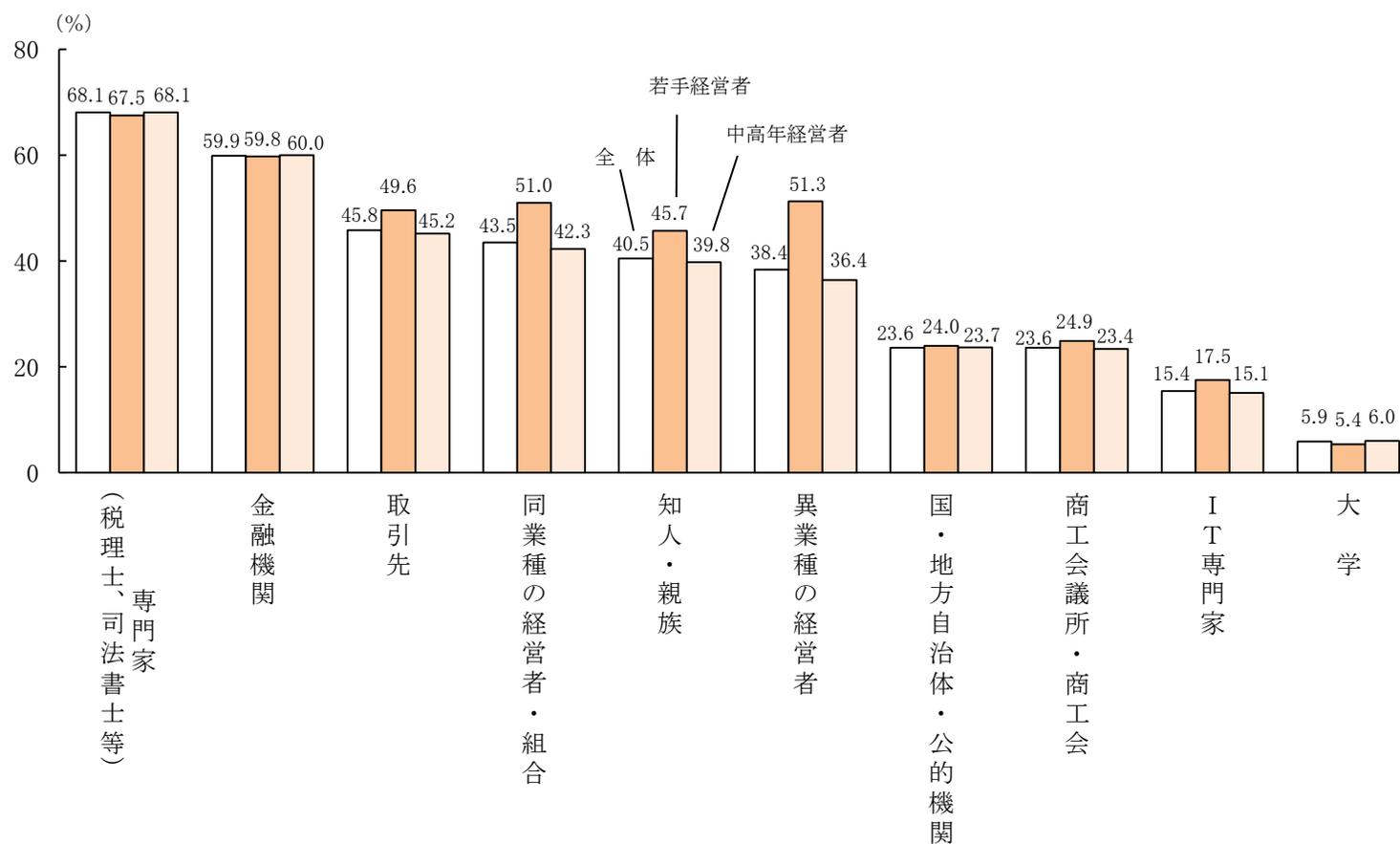
II 調査結果

2 中小企業経営者の年代別特徴

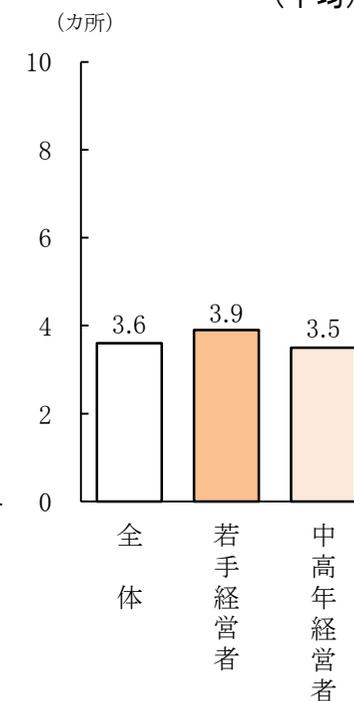
～「若手経営者」は「中高年経営者」よりも経営の相談相手が多い～

- 経営の相談を「年1回以上」している相手を見ると、全体では「専門家（税理士、司法書士等）」の割合が68.1%と最も高く、次いで「金融機関」が59.9%、「取引先」が45.8%の順となっている（図－9－1）。
- 年代別にみると、「若手経営者」は「異業種の経営者」「同業種の経営者・組合」「知人・親族」などの割合が「中高年経営者」よりも高くなっている。相談相手の数（平均）も「若手経営者」は3.9カ所と、「中高年経営者」より多い（図－9－2）。

図－9－1 経営の相談相手



図－9－2 相談相手の数（平均）



(注) 各相談相手への相談頻度について「年1回以上」と回答した企業の割合。

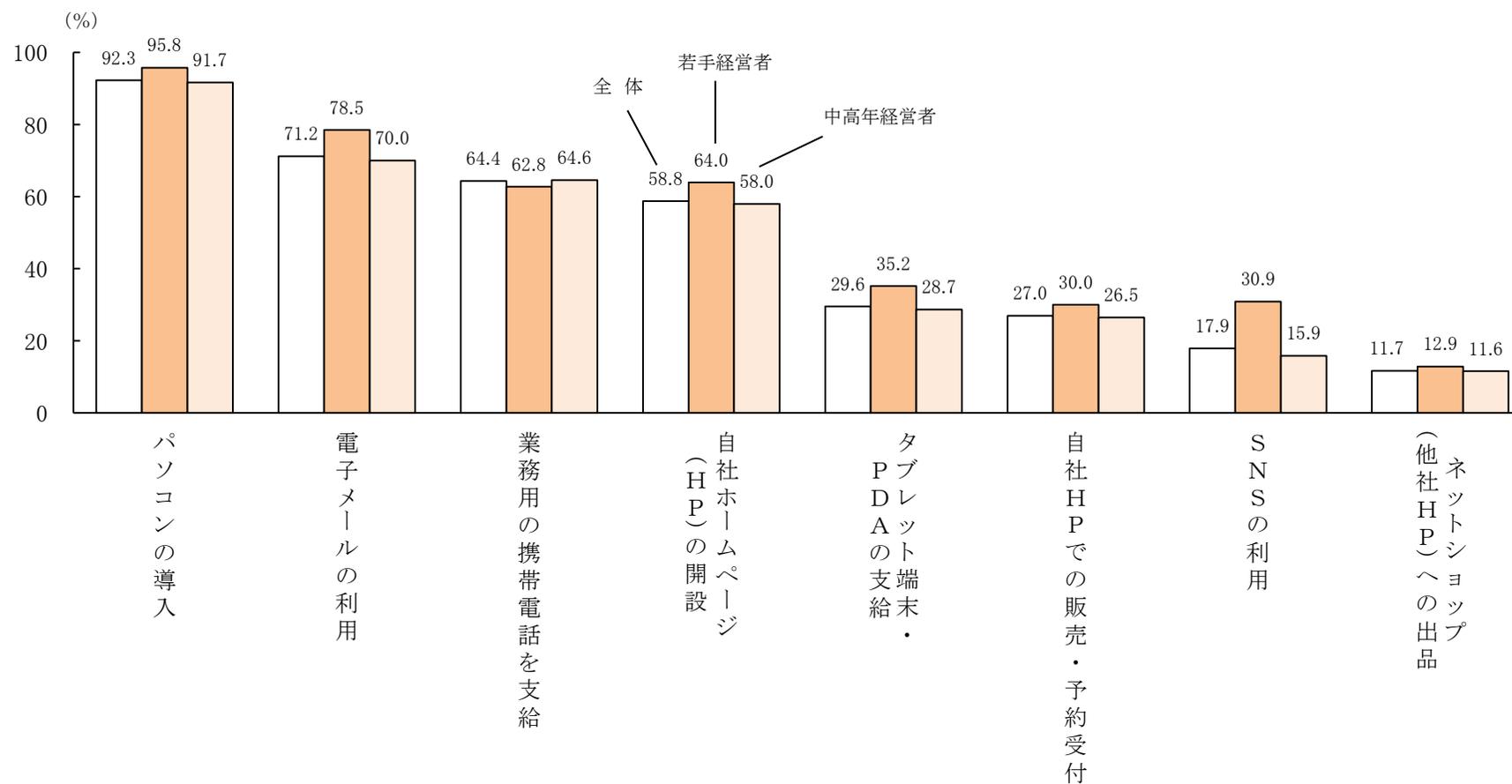
Ⅱ 調査結果

2 中小企業経営者の年代別特徴

～「若手経営者」は「SNS」を導入している割合が高い～

- ITの導入状況をみると、全体では「パソコンの導入」の割合が92.3%と最も高く、次いで「電子メールの利用」が71.2%、「業務用の携帯電話を支給」が64.4%の順となっている（図-10）。
- 年代別にみると、「若手経営者」は「SNSの利用」「電子メールの利用」「自社ホームページ(HP)の開設」などの割合が「中高年経営者」よりも高くなっている。

図-10 ITの導入状況



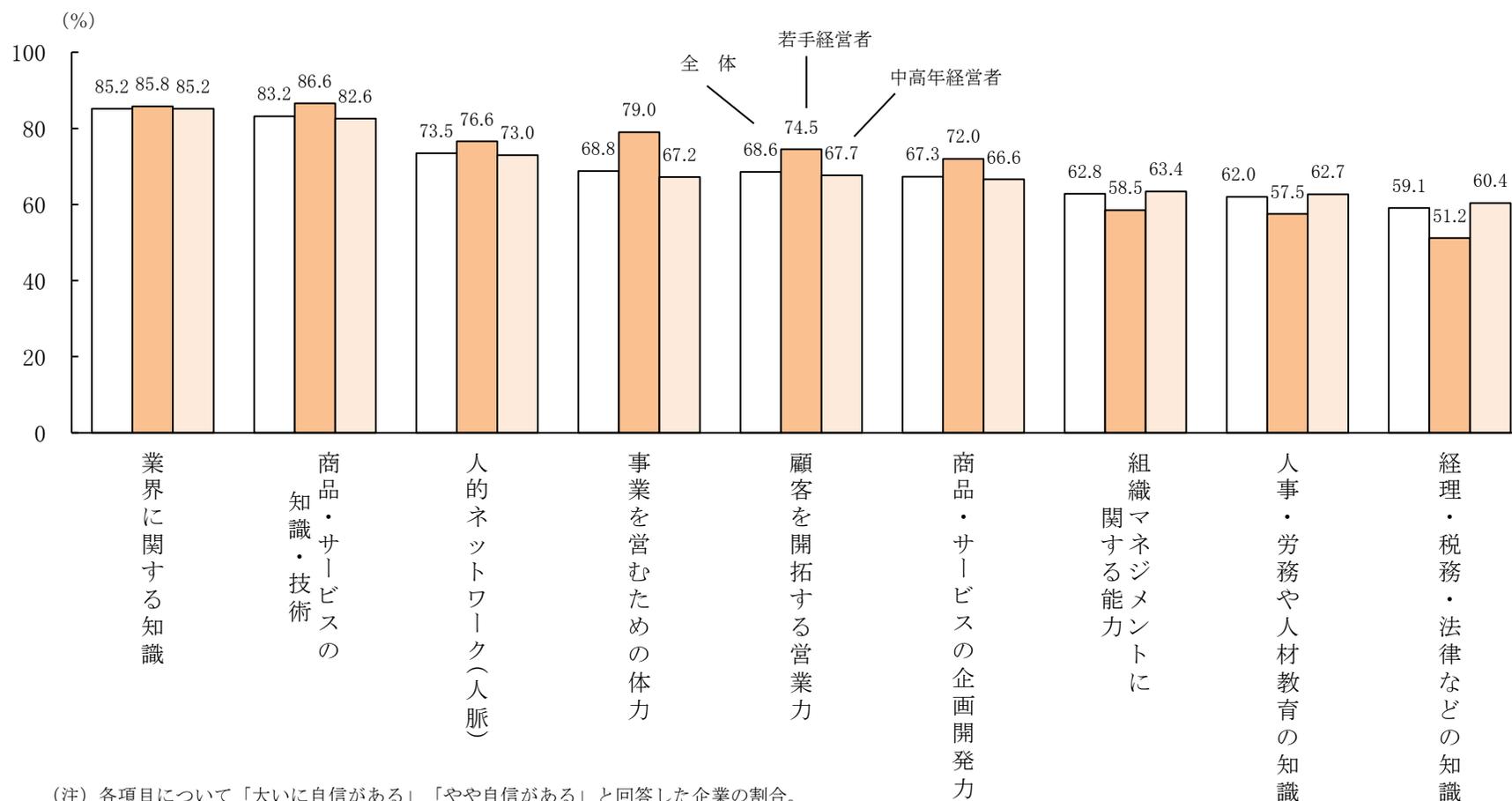
II 調査結果

2 中小企業経営者の年代別特徴

～「若手経営者」は「事業を営むための体力」「顧客を開拓する営業力」に自信あり～

- 経営者として自信がある項目をみると、全体では「業界に関する知識」の割合が85.2%と最も高く、次いで「商品・サービスの知識・技術」が83.2%、「人的ネットワーク（人脈）」が73.5%の順となっている（図－11）。
- 年代別にみると、「若手経営者」は「事業を営むための体力」「顧客を開拓する営業力」などの割合は「中高年経営者」よりも高い一方、「経理・税務・法律などの知識」「人事・労務や人材教育の知識」などは「中高年経営者」よりも低い。

図－11 経営者として自信がある項目



(注) 各項目について「大いに自信がある」「やや自信がある」と回答した企業の割合。

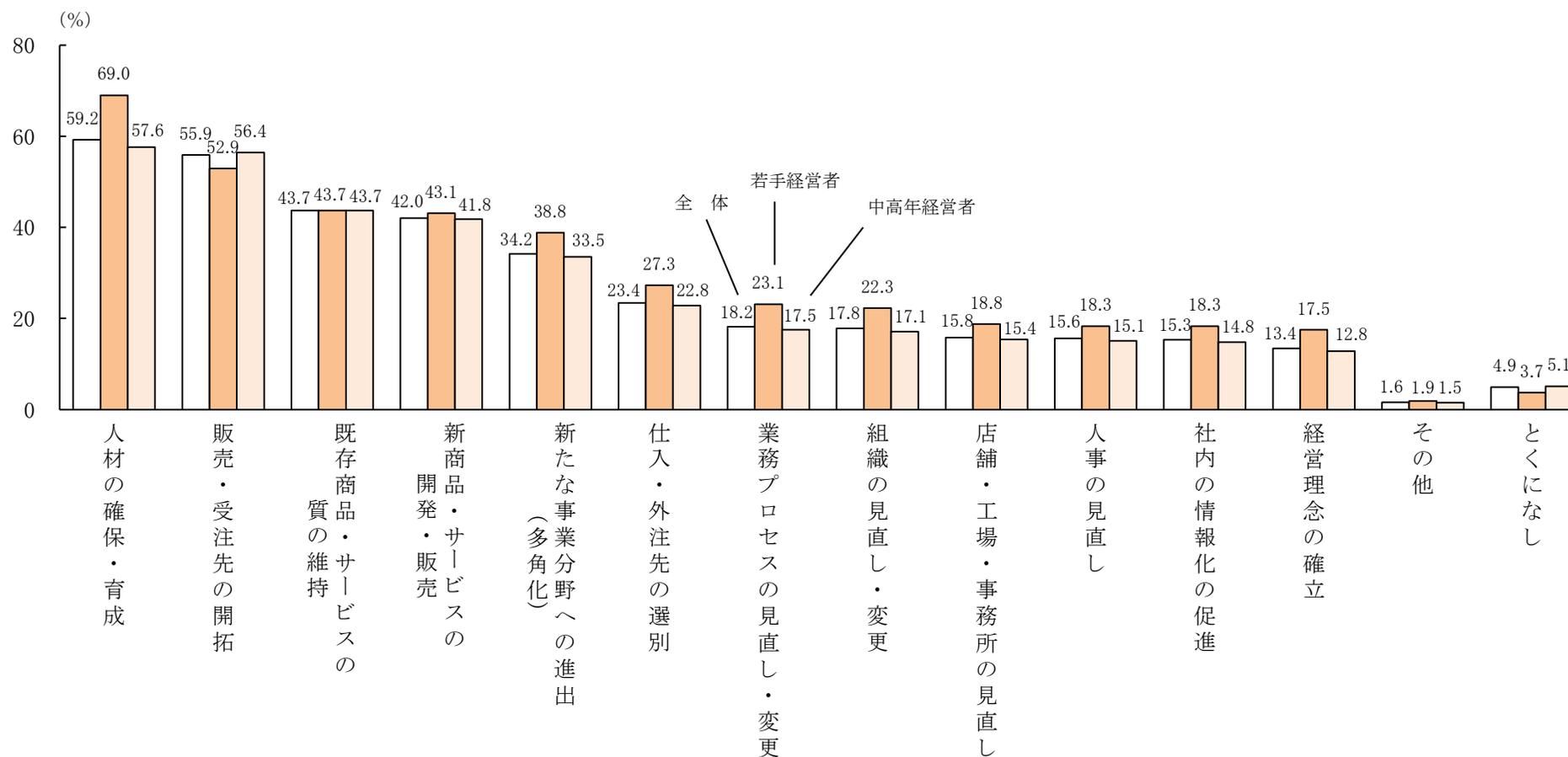
Ⅱ 調査結果

3 経営課題と今後の見通し

～「若手経営者」の企業は「人材の確保・育成」「業務プロセスの見直し・変更」などが課題～

- 現在の経営課題をみると、全体では「人材の確保・育成」の割合が59.2%と最も高く、次いで「販売・受注先の開拓」が55.9%、「既存商品・サービスの質の維持」が43.7%の順となっている（図-12）。
- 「若手経営者」の企業についてみると、「人材の確保・育成」「業務プロセスの見直し・変更」「新たな事業分野への進出（多角化）」などの割合が「中高年経営者」よりも高くなっている。

図-12 現在の経営課題（複数回答）



II 調査結果

3 経営課題と今後の見通し

～「若手経営者」は「中高年経営者」よりも事業拡大志向が強い～

- 今後の事業方針をみると、「拡大したい」と回答した割合は全体の48.1%であった(図-13)。年代別にみると、「若手経営者」では、「拡大したい」と回答した割合が61.3%と、「中高年経営者」の46.0%を上回っている。
- 今後の事業多角化の方針をみると、「実施したい」と回答した割合は全体の63.7%であった(図-14)。年代別にみると、「若手経営者」は、「実施したい」と回答した割合が73.8%と、「中高年経営者」の62.0%を上回っている。

図-13 今後の事業方針

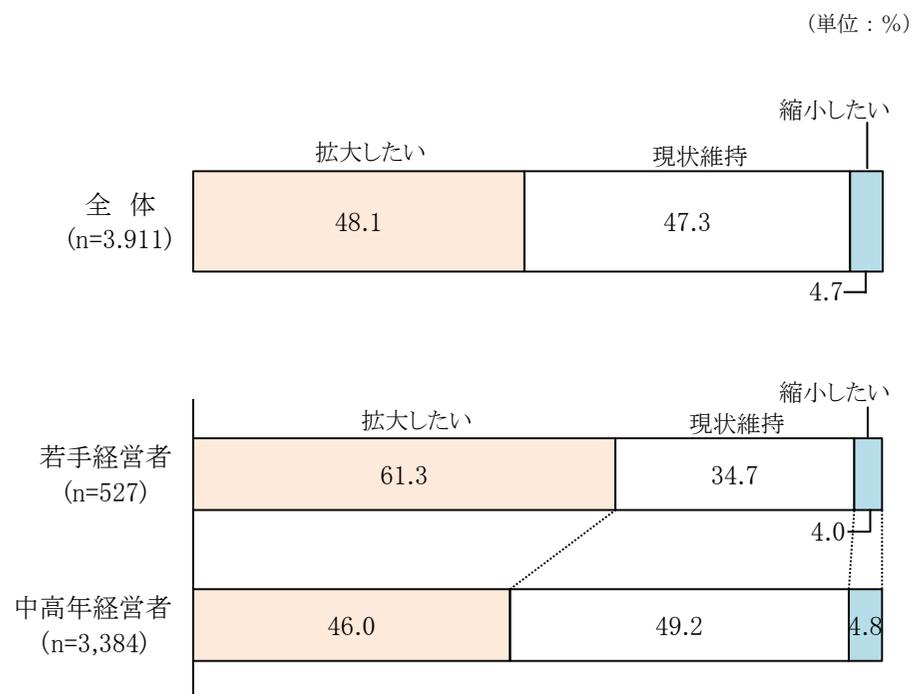
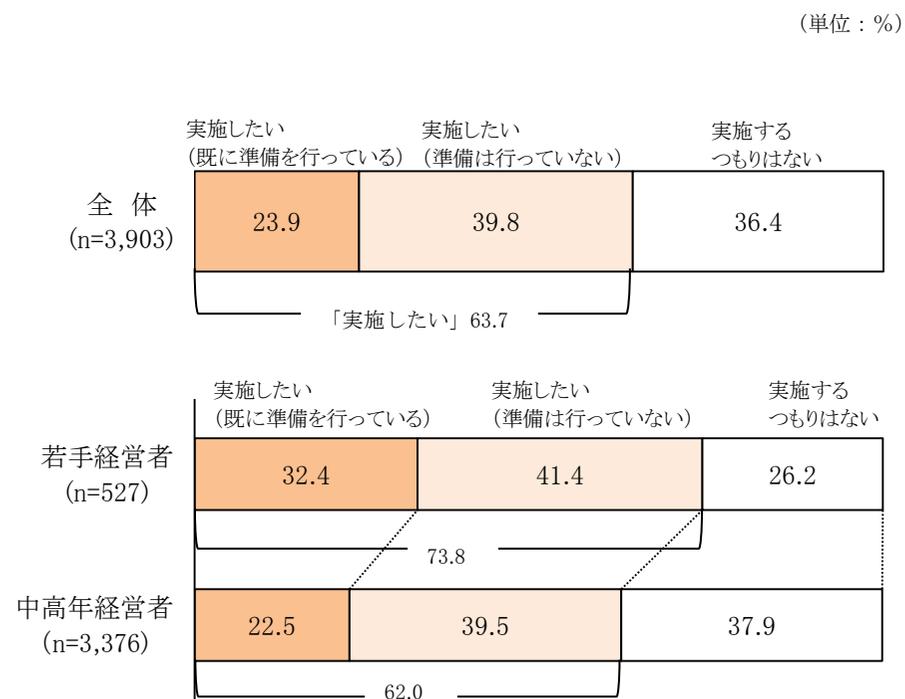


図-14 今後の事業多角化の方針



Ⅲ まとめ

「若手経営者」は「中高年経営者」と比べて外部資源を積極的に活用している。

事業拡大・多角化への意欲も旺盛である。

アンケート結果を経営者の年代別に分析したところ、44歳以下の「若手経営者」は45歳以上の「中高年経営者」と比べて、以下の特徴があることが明らかになった。

1 経営する企業の業績は良好

44歳以下の「若手経営者」が経営する企業では、現在の「売り上げ」「利益額」「従業員数」いずれの項目についても「増加傾向」と回答した企業の割合が「減少傾向」を上回っている。45歳以上の「中高年経営者」と比べて、「増加傾向」の割合はそれぞれ高い水準である。

2 外部資源を積極的に活用

「若手経営者」は「取引先」や「同業種の経営者・組合」「異業種の経営者」など、多くの外部機関等から経営に必要な情報を収集している。また、「若手経営者」は「中高年経営者」に比べて外部への経営の相談を活発に行っており、SNSの活用についても積極的である。

3 「事業を営むための体力」「顧客を開拓する営業力」に自信

経営者として自信をもっている項目として、「若手経営者」は「事業を営むための体力」「顧客を開拓する営業力」などを「中高年経営者」より多く挙げている。他方、「経理・税務・法律などの知識」「組織マネジメントに関する能力」「人事・労務や人材教育の知識」は「中高年経営者」に比べて、割合が低くなっている。

4 事業拡大・多角化意欲が強い

今後の事業方針についてみると、「若手経営者」の6割超が「拡大したい」と回答している。また事業の多角化についても、「若手経営者」の7割超が「実施したい」としており、「若手経営者」の旺盛な事業拡大・多角化意欲がうかがえる。